

## 「青春の詩」

サムエル・ウルマン作

松永安左エ門訳

青春とは人生の或る期間を言うのではなく心の様相を言うのだ。

逞<sup>たくま</sup>しき意志，優れた創造力，炎ゆる情熱，怯懦<sup>きようだ しりぞ</sup>を却ける勇猛心，  
安易を振り捨てる冒険心，こう言う様相を青春と言うのだ。

年を重ねるだけで人は老いない。

理想を失う時に初めて老いがくる。

歳月は皮膚のしわを増すが，情熱を失う時に精神はしぼむ。

苦悶<sup>こぼん</sup>や狐疑<sup>こぎ</sup>や，不安，恐怖，失望，こう言うものこそ恰<sup>あたかも</sup>も  
長年月の如く人を老いさせ，精気ある魂<sup>あくと</sup>をも芥に帰せしめてしまう。

年は70であろうと，16であろうと，その胸中に抱き得るものは何か。

日く，驚異<sup>あいほ</sup>への愛慕<sup>あいぼ</sup>心，空にきらめく星晨<sup>せいしん</sup>，その輝きにも似たる事物や  
思想に対する欽仰<sup>きんぎょう</sup>，事に処する剛毅な挑戦<sup>しやうに</sup>，小児の如く求め止まぬ探求心，  
人生への歓喜と興味。

人は信念と共に若く 疑惑と共に老ゆる。

人は自信と共に若く 恐怖と共に老ゆる。

希望ある限り若く 失望と共に老い朽ちる。

大地より，神より，人より，美と喜悦，勇氣と壮大，  
そして偉力の靈感を受ける限り人の若さは失われない。

これらの靈感が絶え，悲歎<sup>ひたん</sup>の白雪が人の心の奥までも蔽<sup>おほ</sup>いつくし，  
皮肉の厚氷がこれを固くとざすに至ればこの時にこそ人は全くに老いて  
神の憐みを乞う他はなくなる。